

指数関数の定義と基本的性質

平成 19 年 10 月

小澤 徹

<http://www.ozawa.phys.waseda.ac.jp/index2.html>

$z \in \mathbb{C}$ に対し $\exp(z) = \sum_{n=0}^{\infty} \frac{z^n}{n!}$ と置く。このとき次が成立つ。

命題

- (1) $\exp : \mathbb{C} \ni z \mapsto \exp(z) \in \mathbb{C}$ は解析的である。
- (2) $\exp(z + z') = \exp(z) \exp(z')$, $z, z' \in \mathbb{C}$ (指数法則)
 $\exp(0) = 1$
- (3) $\exp' = \exp$
- (4) $\exp(\mathbb{C}) = \mathbb{C} \setminus \{0\}$
- (5) $\theta \in \mathbb{R}$ に対し $\cos(\theta) = \operatorname{Re} \exp(i\theta)$, $\sin(\theta) = \operatorname{Im} \exp(i\theta)$ と置く。このとき
 - (i) $(\cos | [0, \infty))^{-1}(\{0\})$ は最小元を持つ。この値の 2 倍を π とする:
 $\pi/2 = \min\{\theta \geq 0; \cos \theta = 0\}$.
 - (ii) $\exp\left(\frac{\pi}{2}i\right) = i$
 - (iii) $\exp(z) = \exp(z') \Leftrightarrow z - z' \in 2\pi i\mathbb{Z}$
- (6) $\exp : \mathbb{R} \ni x \mapsto \exp(x) \in (0, \infty)$ は狭義増加で全単射。
- (7) $\mathbb{R} \ni \theta \mapsto \exp(i\theta) \in \{z \in \mathbb{C}; |z| = 1\}$ は全射。
- (8) \mathbb{T} を $\{z \in \mathbb{C}; |z| = 1\}$ の成す乗法群とする。単位元は 1 である。写像 $x \mapsto \exp(ix)$ は加法群 \mathbb{R} から乗法群 \mathbb{T} への準同型写像で、その核 (\mathbb{T} の単位元 1 の逆像) は $2\pi\mathbb{Z}$ となる。よって準同型写像 $\mathbb{R} \ni x \mapsto \exp(ix) \in \mathbb{T}$ は同型写像 $\varphi : \mathbb{R}/2\pi\mathbb{Z} \rightarrow \mathbb{T}$ を引き起こす。ここで $\mathbb{R}/2\pi\mathbb{Z}$ は \mathbb{R} を $2\pi\mathbb{Z}$ で割った商群を表し、 \mathbb{R} から引き起こされる商位相を与える。このとき $\varphi : \mathbb{R}/2\pi\mathbb{Z} \rightarrow \mathbb{T}$ は位相同型となる。 $z \in \mathbb{C} \setminus \{0\}$ に対して $\arg z = \varphi^{-1}(z/|z|)$ と置き z の偏角と謂う。 \mathbb{C}^* を $\mathbb{C} \setminus \{0\}$ の成す乗法群とすると $\arg : \mathbb{C}^* \rightarrow \mathbb{R}/2\pi\mathbb{Z}$ は連続な準同型写像となる。

(証明) (1),(2),(3) に就いては多くの教科書に証明が記載されているので省略。

(6) の証明： 定義により $\overline{\exp(z)} = \exp(\bar{z})$ であるから $x \in \mathbb{R}$ に対し $\overline{\exp(x)} = \exp(\bar{x}) = \exp(x)$ となり $\exp(x) \in \mathbb{R}$ が従う。 $x \geq 0$ とすれば定義により $\exp(x) \geq 1 + x > 0$ であり (2) により $\exp(-x) = (\exp(x))^{-1}$ であるので $\exp(-x) > 0$ 。 よって $\exp(\mathbb{R}) \subset (0, \infty)$ が従う。(3) より $\exp' = \exp$ であり、 \mathbb{R} 上 \exp は正值なので \exp は狭義増加、特に単射である。更に、 $\exp(x) \geq 1 + x \rightarrow \infty (x \rightarrow \infty)$ 及び $\exp(-x) = (\exp(x))^{-1} \leq (1+x)^{-1} \rightarrow 0 (x \rightarrow \infty)$ より $\exp(\mathbb{R}) = (0, \infty)$ となる。

(5) の証明： 定義により $\theta \in \mathbb{R}$ に対し

$$(*) \quad \exp(i\theta) = \cos \theta + i \sin \theta$$

であり (3) により $\frac{d}{d\theta}(\exp(i\theta)) = i \exp'(i\theta) = i \exp(i\theta)$ であるので再び定義により

$$\frac{d}{d\theta}(\exp(i\theta)) = i \exp(i\theta) = i(\cos \theta + i \sin \theta) = -\sin \theta + i \cos \theta$$

となるので実部と虚部を比較する事により

$$\cos' = -\sin', \quad \sin' = \cos$$

を得る。

さて、(*)、(2) と関係式 $\overline{\exp(z)} = \exp(\bar{z})$ により

$$(\cos \theta)^2 + (\sin \theta)^2 = \exp(i\theta) \overline{\exp(i\theta)} = \exp(i\theta) \exp(-i\theta) = 1$$

が従うので $\cos(\mathbb{R}), \sin(\mathbb{R}) \subset [-1, 1]$ を得る。また (2) と定義により $\cos(0) = \operatorname{Re} \exp(0) = 1$, $\sin(0) = \operatorname{Im} \exp(0) = 0$ が従う。さて \cos と \exp の定義により

$$\begin{aligned} \cos(\theta) &= (\exp(i\theta) + \overline{\exp(i\theta)})/2 \\ &= (\exp(i\theta) + \exp(-i\theta))/2 \\ &= \frac{1}{2} \sum_{n=0}^{\infty} \frac{(i\theta)^n}{n!} + \frac{1}{2} \sum_{n=0}^{\infty} \frac{(-i\theta)^n}{n!} \\ &= \frac{1}{2} \sum_{n=0}^{\infty} (1 + (-1)^n) \frac{(i\theta)^n}{n!} \\ &= \sum_{k=0}^{\infty} \frac{(i\theta)^{2k}}{(2k)!} \\ &= \sum_{k=0}^{\infty} \frac{(-1)^k \theta^{2k}}{(2k)!} \\ &= \sum_{\ell=0}^{\infty} \frac{\theta^{4\ell}}{(4\ell)!} - \sum_{\ell=1}^{\infty} \frac{\theta^{4\ell-2}}{(4\ell-2)!} \\ &= 1 + \sum_{\ell=1}^{\infty} \left(\frac{\theta^2}{4\ell(4\ell-1)} - 1 \right) \frac{\theta^{4\ell-2}}{(4\ell-2)!} \end{aligned}$$

となり $0 \leq \theta \leq 2$ に対し $\frac{\theta^2}{4\ell(4\ell-1)} \leq \frac{1}{\ell(4\ell-1)} < 1 (\ell \geq 1)$ なので $\cos(2) \leq 1 + \left(\frac{4}{4 \cdot 3} - 1\right) \frac{2^2}{2!} = 1 - \frac{4}{3} = -\frac{1}{3} < 0$ となる。連続関数 $\cos: \mathbb{R} \rightarrow \mathbb{R}$ は $\cos(0) = 1$, $\cos(2) \leq -\frac{1}{3}$ を満たすので \mathbb{R} に於ける区間 $\cos[0, 2]$ は $0 \in \left[-\frac{1}{3}, 1\right] \subset \cos[0, 2]$ なる包含関係を持ち、閉集合 $\cos^{-1}(\{0\})$ と有界閉区間 $[0, 2]$ との交わり $\cos^{-1}(\{0\}) \cap [0, 2]$ は有界閉集合となるので、その下限は最小値となる。それを $\pi/2$ と表す事にすると

$$\begin{aligned} \frac{\pi}{2} &= \inf\{\varphi \in [0, 2]; \forall \theta \in [0, \varphi], \cos \theta > 0\} \\ &= \min\{\theta \in [0, 2]; \cos(\theta) = 0\} = \min(\cos|_{[0, \infty)})^{-1}(\{0\}) \end{aligned}$$

なる関係式が従う。さて $\cos\left(\frac{\pi}{2}\right) = 0$ であるので $\cos^2 + \sin^2 = 1$ により $\sin^2\left(\frac{\pi}{2}\right) = 1$ となるが、区間 $[0, \pi/2)$ 上 $\sin' = \cos > 0$ かつ $\sin(0) = 0$ であるので $\sin\left(\frac{\pi}{2}\right) = 1$ を得る。以上より $\left[0, \frac{\pi}{2}\right]$ 上 \sin は狭義単調増加、 $\sin(0) = 0$, $\sin\left(\frac{\pi}{2}\right) = 1$, $\left(0, \frac{\pi}{2}\right)$ 上 $\sin > 0$ である事が従う。これより $\cos' = -\sin$ なる関係を用いて $\left[0, \frac{\pi}{2}\right]$ 上 \cos は狭義単調減少、 $\left[0, \frac{\pi}{2}\right]$ 上 $\cos > 0$ である事が従う。また (*) より $\exp\left(\frac{\pi}{2}i\right) = \cos\left(\frac{\pi}{2}\right) + i\sin\left(\frac{\pi}{2}\right) = i$ 、指数法則より $\exp(\pi i) = \left(\exp\left(\frac{\pi}{2}i\right)\right)^2 = i^2 = -1$, $\exp\left(\frac{3\pi}{2}i\right) = \exp(\pi i)\exp\left(\frac{\pi}{2}i\right) = -i$, $\exp(2\pi i) = (\exp(\pi i))^2 = 1$ が従う。これより $z - z' \in 2\pi i\mathbb{Z} \Leftrightarrow \exists m \in \mathbb{Z} : z - z' = 2m\pi i \Rightarrow \exp(z) = \exp(z')\exp(2m\pi i) = \exp(z')(\exp(2\pi i))^m = \exp(z')$.

次に「 $\exp(z) = \exp(z') \Rightarrow z - z' \in 2\pi i\mathbb{Z}$ 」を示そう。指数法則により「 $\exp(z) = 1 \Rightarrow z \in 2\pi i\mathbb{Z}$ 」を示せば良い。 $z = x + iy (x, y \in \mathbb{R})$ と表すと $\exp(z) = \exp(x)\exp(iy)$, $\exp(\mathbb{R}) = (0, \infty)$, $|\exp(iy)| = \sqrt{\exp(iy)\overline{\exp(iy)}} = \sqrt{\exp(iy)\exp(-iy)} = 1$ であるから $1 = |\exp(z)| = \exp(x)$ が従う。 $\exp|_{\mathbb{R}}$ は単射で $\exp(0) = 1$ なので $x = 0$ を得る。よって $z = iy$ となるので $y/2\pi \in \mathbb{Z}$ を示せば良い。 $\exp(z + 2\pi i) = \exp(z)$, $z \in \mathbb{C}$ なる関係より「 $0 < \theta < 2\pi \Rightarrow \exp(i\theta) \neq 1$ 」なる事を示せば良い。実際これより「 $\exp(i\theta) = 1, \theta \in [0, 2\pi] \Rightarrow \theta = 0$ または 2π 」となるからである。さて $0 < \theta/4 < \pi/2$ で $(0, \pi/2)$ 上 $\cos, \sin > 0$ なので $\cos(\theta/4), \sin(\theta/4) > 0$ であり $\cos^2(\theta/4) + \sin^2(\theta/4) = 1$ であるから $\exp(i\theta/4) = \cos(\theta/4) + i\sin(\theta/4)$ は $\pm 1, \pm i$ を取らない。 $\exp(i\theta) = (\exp(i\theta/4))^4$ であり $z^4 - 1 = (z^2 - 1)(z^2 + 1) = (z + 1)(z - 1)(z + i)(z - i)$ なる関係から $\exp(i\theta) = 1 \Leftrightarrow \exp(i\theta/4) \in \{\pm 1\} \cup \{\pm i\}$ を得るので $\exp(i\theta) \neq 1$ となる。これが示すべき事であった。

(7) の証明: $|z| = 1$ なる $z \in \mathbb{C}$ に対し $\exp(i\theta) = z$ なる $\theta \in \mathbb{R}$ の存在を示せば良い。 $z = x + iy (x, y \in \mathbb{R})$ と表すと $x^2 + y^2 = 1$ である。

次の4つの場合に分けて考える: (i) $x \geq 0, y \geq 0$ (ii) $x \geq 0, y < 0$ (iii) $x < 0, y \geq 0$ (iv) $x < 0, y < 0$

(i) $x \geq 0, y \geq 0$ の場合: \cos は $[0, \pi/2]$ 上狭義単調減少で $0 = \cos(\pi/2) < \cos(0) = 1$ であるので $\cos(\theta) = x$ なる $\theta \in [0, \pi/2]$ が唯一つ存在する。 $[0, \pi/2]$ 上 $\sin \geq 0$ なので

$\sin \theta = \sqrt{1 - \cos^2(\theta)} = \sqrt{1 - x^2} = y$ となり $\exp(i\theta) = \cos(\theta) + i \sin(\theta) = x + iy = z$ を得る。

(ii) $x \geq 0, y < 0$ の場合: $x + iy$ の代わりに $-y + ix$ を考えると (i) により $\exp(i\varphi) = -y + ix$ なる $\varphi \in [0, \pi/2)$ が唯一つ存在する。このとき $\exp\left(i\left(\varphi + \frac{3\pi}{2}\right)\right) = \exp(i\varphi) \exp\left(\frac{3\pi}{2}i\right) = (-y + ix)(-i) = x + iy$ なるので $\theta \equiv \varphi + \frac{3\pi}{2}$ が求めるものである。

(iii) $x < 0, y \geq 0$ の場合: $x + iy$ の代わりに $y - ix$ を考えると (i) により $\exp(i\varphi) = y - ix$ なる $\varphi \in (0, \pi/2]$ が唯一つ存在する。このとき $\exp\left(i\left(\varphi + \frac{\pi}{2}\right)\right) = \exp(i\varphi) \exp\left(\frac{\pi}{2}i\right) = (y - ix)i = x + iy$ なるので $\theta \equiv \varphi + \frac{\pi}{2}$ が求めるものである。

(iv) $x < 0, y < 0$ の場合: $x + iy$ の代わりに $-x - iy$ を考えると (i) により $\exp(i\varphi) = -x - iy$ なる $\varphi \in (0, \pi/2)$ が唯一つ存在する。このとき $\exp(i(\varphi + \pi)) = \exp(i\varphi) \exp(\pi i) = (-x - iy)(-1) = x + iy$ なるので $\theta \equiv \varphi + \pi$ が求めるものである。

(4) の証明: $z = x + iy \in \mathbb{C}$ に対し $\exp(z) = \exp(x) \exp(iy)$, $(\exp(x), \exp(iy)) \in (0, \infty) \times \{z; |z| = 1\} \simeq \mathbb{C} \setminus \{0\}$ なるので $\exp(\mathbb{C}) \subset \mathbb{C} \setminus \{0\}$ が成立つ。よって $\mathbb{C} \setminus \{0\} \subset \exp(\mathbb{C})$ を示せば良い。任意の $w \in \mathbb{C} \setminus \{0\}$ に対し $|w| \in (0, \infty) = \exp(\mathbb{R})$ なるので $x \in \mathbb{R}$ が存在して $|w| = \exp(x)$ となる。このとき $|w|/|w| = 1$ であるので、(7) により $w/|w| = \exp(iy)$ なる $y \in \mathbb{R}$ が存在する。さて $z = x + iy \in \mathbb{C}$ は $\exp(z) = \exp(x) \exp(iy) = |w|(w/|w|) = w$ を満たすのでこれが求めるものである。

参考文献: H. カルタン「複素函数論」、岩波書店

Robert B. Burckel, *An Introduction to Classical Complex Analysis Vol.1*,
Pure and Applied Mathematics 82, Academic Press.